琉球大学学術リポジトリ

岸総理大臣第1次訪米関係一件 岸・マッカーサー 予備会談(於東京) 第1巻

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2019-04-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44167

打力七 厘



岸 総 理 米力 備サ 談米 第大 七使 回会 談 要 旨

訪 予 会

文昭 課

岸 総 理 は 五. 月 + 日 外 務 省 \mathscr{C} 7 ッ 力 1 サ 1 米 大 使 を 招 致 L て

午 前 八 榯 # Ţ り + 時 ま Ċ Ø 約 畤 間 半 訪 米 予 備 会 談 Ø 第 七 回 を

行

7 た 0 要 旨 左 Ø ٤ ₺ Ŋ

大 ラ A 野 次 官 等 書 記 朝 官 海 大 使 竹 D 内 同 千

葉

局

長

王

1

ガ

ン

参

奉

官

ま ず 大 使 ፗ Ŋ 四 月 + 五 席 日 Ø 会 談 \mathbb{C} お M て

ð

實 総

理

は

(1)

世

界

情 勢 Ø 判 断 及 (X) (\square) 自 由 諸 玉 Ζĵš Ŋ χÌ C ۲ n \mathcal{C} 対 処 重 ベ き 办 Ø 方 途

Ø つ Ø 問 題 \mathcal{C} つ V 7 見 解 を 示 な n た か 自 分 Š ま た (1) 第 \mathscr{C}

勢 判 断 · 10 お S 7 共 通 0 見 解 VC達 す る ح ح (\square) L ゔ L て 第 段

չ

L て ح 0 判[断 KC 基 ľγ て ζ. n 1/2 ķΑ χ'n KC 対 処 す ペ Ė 办 10. つ き 共 通

冒 Ø Ľ 理 < 雪 る Š Ø で あ る 0 け だ L Z). < す n ば 爾 後 K お V て 豁 見 解 般 0 を

問 題 を 手 掛 け る た Ю Ø 基 儊 迩 で Ť る ζ'n 6 で あ Ż 0

四 月 十 · **Ti.** 日 第 五 回 会 談 Ø 日 本 側 Ø 書 ŧ 物 は 本 玉 KC 称 V

7

検 討 な n て M た *\$*100 今 回 本 国 \mathcal{C} \mathbf{k} M て 世 界 情 '勢 \mathcal{C} 関 す る Ś 7 չ B 斩

新 6 L S 情. 勢 判 断 ح 自 由 諸 玉 が Ł る ベ ž 政 策 を **\$** Ø produced

た ١ 1 丰 ン グ ,~\° Ī パ ŀ を 持 参 L た 0 ح n は 最 近 (C お け る ソ 連 0

L

た

0

自

分

は

本

日

ح

0

米

国

政

府

Ø

B

つ

と

Š

新

B

V

研

究

を

ま

չ

K)

L

玉 内 経 済 体 制 Ø 変 更 10 関 す る 最 初. Ø 判 断 を 9 含 也 ぼ ど 新 6 L M P

Ø で あ り , 本 玉 で ح n を 作 成 L た 者 ٤ 實 総 理 以 外 \mathcal{C} は 未 だ 誰 B . ح

n を P · '> .7 *دي*ا. な ضِا ٤ 述 \sim 別 添 甲 英 文 部 ŧ 総 理 100 手 交 L た

ح n を 読 み 上 げ た ŀΟ

解 \mathcal{C} 達 す る ح ځ 'n 最 善 Ø 方 法 で あ る ح Ø 点 \mathcal{C} お M て

大 使 は 右 朗 読 Ø 間 \mathscr{C} 点 C つ È 左 Ø ٤ ₺ り 補 足

的

説

明

ž

加

Ż た O

(1) 別 添 甲 第 + 頁 (c) 衠 星 諸 国 Ø 項) (C 関 連 L 米 国 ح L て 炷

ポ Ī ラ ン * 10 零 V \mathcal{T} 反 乱 ZQX 起っ た 場 合 Ø 危 険 を 痛 < 心 配 L て

る 0 : አቴ° I ラ ン. . **F*** \mathcal{C} 吞 け る 事 変 は , 東 独 MC. 影 響: を 与 <u>څ</u> . Z.

為 で あ ろ Ĵ ٔ ح n ゕ 東 独 $/\!C$ 波 及 重 る 婸 合 (C -は 西 独 政 KC

向 V Z) ん **(**C 拘 6 ず 西 独 Ø 人 民 ぶ ح ٤ を 起 L 東 西 両 ١, 1 ッ

境 界 線 を 越 兔 て 襅 件 Ŋ, 発 生 す る 危 険 Ŋ, あ る Ż 6 で あ る

o :

府

0

意

Ø

は

₽

10

M

同 第 + 二頁 (a) ~ 台 湾 政 府 KC. 言 及 L て Ø る 個 所 KC 関 連

 (\Box)

つ Ø 中 五 と V う 際 `**Y** . 東 南 7 ジ 7 וכי な け る・ 華 僑 Ø 問 題 が 極 ХÒ

て 重 Ò Ġ 拠 **b**. 所· ح

要 と な る ح 思 ゥ ح ħ 華 僑 Ø L て Ø 台 北 Ø 意 錈

utility of Taipei as the rallying point は 重 要 で あ り Ø

中 玉 と (/a ゔ 合 台 北 Ø ح Ø 意 義 は 全 ₹ 失 わ n て L ŧ う

7

あ

ろ

う 0

右 を 読 み 終 **9** 7 大 使 は。 貴 総 理 办 7 1 ゼ シ ハ ワ Ī 大 統 頒 ح 会

談 な n る 場 合 世 界 \oplus \mathcal{C} ₽. \Diamond τ 大 統 領 S ع . 世 界 平 和 Ó た め 献 身

L

体

7 ķΑ る Ġ Ø は な M ۲ ٤ 郯 ℷ 分 Ŋ \mathcal{C} な る Ł 思 う 0 大 統 領 は 戦 . 争 · Ø 実

り・

体

を

身

を

Ğ

つ

 \mathcal{T}

経

験

L

Ť

ॐ

そ

n

故

K

正

義

10

基

<

和

Ø

維

持

C

は

b

は 非 常 な 関 ιÙ Ł 有 す る 人 C あ る Ö ķΑ ず れ 1/C L 7 P ح 0 書 È 物

先 般 Ø 貴 総 理 Ø 見 解 C 対 応 correspond) す る 米 国 政 府 Ø B 5 ح

新 5 L M 判 断 で あ り ح 礼 を * 手 許 (C 残 L ج 行 < 办 Ь 御 検 討 あ b

た ķ ٤ 述 ~ た 0

ح n \mathcal{C} 対 ئا 総 理 は 具 今 Ø Þ 話 は 方 向 \mathscr{C} お V 7 大 体 わ d) 方 Ø 見

解 չ 百 ľ と 思 ゔ o ፟፟ጟ ₺ 籍 L ` < は ح Ø 書 . き 物 を 検 討 す る ح と ح S た

L た M と 述 ~" 大 使 は 是 非 そ **う**. ***** 願 \triangleright す る ح 述 ~ た

ľ

思

でう 共 見 り ģ 日 ح ゔ 産 っ 解 本 0 n 次 必 Ø 国 主 Ø を は ديا. ŧ 行 7 義 要 大 た 祭 地 で 者 位 体 情 χŅ 7 サ 自 纖 痛 を た ジ 由 ぶ 勢 理 Š, 致 諧 I 考 乗 感 \mathscr{C} x 国 り ず 克 ス つ 3 Ø L る で チ て S n n Cح ば 対 刎 る て あ Ħ V す ح 考 る 添 Ø る は 7 0 O る 乙 ٤ え を で 行 方 Ø 共 ኍ あ る け 先 産 向 る る 般 趣 だ Œ つ Ø 0 بخ ح نا た 安 主. 旨 保 日 以 義 で Ø Ĺ Ł Ø 米 日 上 ģ 龤 条 述 て 米 約 日 日 国 ベ 両 Ø 米 米 Ţ 只 国 両 Ø Ø た 今 間 双 0 関 う 政 政 玉 策 Z). 自 正 方 係 K な 右 + 分 を 誤 Ł は ·国 C Ø ¥1. 彼 分 解 際 領 判 終 つ. な 情 述 土 断 6 Ϋ́ つ (A あ 相 勢 **~**" 問 て を は 7 る 杏 Ħ L \mathcal{C} た 題 ľ 双 総 ٤ 理 意 7 お Ø È 解 賕 方 չ 理 جهار. 解

で

决

Ø

る 膫 Ø な (A I 'n KC L な け n ば な 6 ልጋ Ø ~~ あ る ٤ 述 ベ た į o

乗

ず

は

を

· 7

次 で 総 理 ľ Ŋ ؼ Ø 前 Ø 会 談 申 L た ح **'** り 自 分 は 五 . 月

が 六 ゚ゔ + · ح は り つ 蟚 て 月 ح + て L 帰 日 Ŗ + 7 五. abla奎 国 **κ**ζχ չ る ·L で 日 6 最 L 後 O M 日 き ·及 訪 六 後 た 以 と る W 米 月 O C $\sqrt{2}$ 上 思 会 3 + ŧ 四 た 談 Ĝ ゚ゖ 日 Ø か 八 で B 赭 KC. 日 Ø n Cح Ø 1 L 間 流 る ≉ 六 れ 0 間 共 -- ****\ 回 月 ま 東 C C 同 行 7 南 八 つ て 回 約 声 ゙ゔ 日 提 十 S は 7 7 明 ح 起 H 沙 ワ Ø 六 \mathcal{C} 月 閒 な ・シ と ァ 会 L つ ン ح 談 六 D た は あ · 6 問 八 力 V 卜 L C る て シ て 日 0 国 お 題 話 会 ļ を Š $\langle \rangle$ \mathcal{C} \mathscr{C} 合 1 行 訪 ン 談 つ て り う 問 VA Ø ķ 易 S て あ 後 ح ح 今 す な 7 て 考 ح n 忐 後 る 発 ば 案 応 兌 問 ع 郯 Ø 伺 を 出 る 選 0 L 会 0 Ų, え 3 ¥. 結 た 談 ح 残 論 た た 22 Ø) S は (<u>/</u>) .V (A る ず れ を 旅 五 ٠٤ خ n ば ゔ 行 L 月 思 ح 中 述 る ح Ţ 1/2

た

Ħ

Х

. .

٤.

令 を ζ う n ・け VC 7 対 خلا تلا L ゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 大 使 六 は 13.5 月 一九 実 一日 ゚゙゚゙ 夜 自 Ж 分 発 は を 総 一季 理 定 Ø L · 訪 て 米 ic Ŋ 当 ·る 10 り 帰 そ L 国 て 봔 貴 ょ 総 ٤ 理 Ø ጂኒ 訓

着 さ n る ま で K ワ シ ン P / で 丸 週 間 Ø 余 裕 を 見 込

W

で

V

る

Žį

ح

到

۲ n は 必 要 ځ 思 う o 従 つ・ て 六 月 八 目. を 最 後 Ø 会 談 ٤. た L た V

述 ベ た

総 理 は 右 を 了 承 自 分 ДŠ. 東 南 7 ジ 7 旅 行 中 五 月 十 八 日 න[:]

会

ķ

談 六 月: 八 日 Ø 会 談 Ø 間 \mathcal{C} な (A) て は 外 務 省 ح 米 大 使 館 Ø 間 10 \$₹

と

て 務 的 C で Š る だ け 話 を 進 め る ۲ ح ح V た た S ٤ 述 ベ た

大 使 は 右 を 了· 承 L た 後 共 同 声 明 **(**C つ **(**2) て は 互 K ح n を 込

き ح ح Cつ **(**2) て 考 Ż 7 ₺ < ح ٤ は ľ VA. ح と で あ る Ŋ, 案 文 Ť

作 る ح ح は 実 祭 C ヮ シ ン ŀ ン Ø 会 談 Δ., . 行 わ n る ま ~ は で à な ľΔ. 0

実 際 問 題 չ L て ゎ 'n わ れ Ø 予 備 会 談 は 実 情 を 討 瀫 L ワ シ ン ŀ ン

会 談 を 有 益 な b L め る Å Ø ح 思 ぅ゛ 浴 ے ح で 案 文 を 作 る ح Ł は 通

兴 で な M ح 思 う ځ 述 ~ た。

知 ぼ KC ス 総 IS 問 長 n 理 .会 官 な 題 ょ 談 ٤ を ľΩ , Ø 持 , ·O Ŋ Ø .卒 結 出 会 直 綸 L 談 营 ع 葉 . K KC 会 申 ح * .. T Ŀ 談 M 考 τ . て を て 克 そ 案 斑 · 5 文 貴 連 Ø を n 大 2 生 る 吏 使 作 ٠Ď٠ る は 縔 KC P Ø 自 返 申 حے を 分 兔 L $\langle \rangle$ 今 ح 萝 た う ح Ŋ, L 心 ح 6 て Ł ح 算 考 も は は を 兔 適 考 .大 な τ 統 当 充 V ٥ お こる 領 て < · 及 な M ح IL W. ጀንኣ M と Z)A ょ *کل*ا ダ は L ġ Ø レ

有意義と思うと述べた。

President's 大 使 は 自 prerogative 分 は 大 統 領 $\overline{}$ Ø み わ Y: け 多 IC W $\vec{\mathbf{c}}$ ٠.٠٠ : \$74 M *X*2 る . XX 権 共 厕 を 同 声 侵 明 C つ \Diamond て

考

え 7 * **₹** ج. Ł は 起 草 委 員 会 ·Ø 仕 事 を 容 易 な . b L 必 ふる . **B** 0 ح 思 ؈ٛ

Þ

自

分

は

+

五

日

及

(A)

+

八.

.. 日

. 0

·両

回

:会

談

争

る

ح

ج .

 \mathcal{C}

吝

· 办

7.

申 な Ŀ √> け Δï 5 n 侇 る 5 ح ·h 思 た ૽૽૽ૢૺ 米 側 L .. 9 (**0**) ま . オ た .ブ 自 ቻ 分 ~" は Ì + シ 七 ં , ≇ ン + は 八 + Ø 五 両 ...H 日 · Ø 会 冲 談 綳 視 で 察 全 を 部

予 定 L ₹. M る 0 自 分 は 冲 繩 を 未 た み て お 5 ず 時 帰 朝 前 \mathcal{C} 他

 \mathcal{C}

Ø

邎 な 機 会 Ŋ; な Ŵ Ø で そ **う**. L た \Diamond ٤ 思 つ て (A る 0 Ľ. Ż Ĺ 総 理

御 Z). Ļ 意 総 向 K 理 ょっ は 予 て 定 は 勿 変 更 論 3 ۲ n Ø. る 予 要 定 を な 変 克 と て て 差 支 残 さ Ż. n な た Ç2 五 ٤ 月 述 中 ~ Ø た Ό.

は十五日のみとなつた。

次 S て 新 聞 Æ 対 す る 応 対 振 り を 别 添 丙 Ø Ł な り 打 合 ¥ 会 談 を

終った。



- 1. Despite the large number of significant developments in the Communist Orbit since the death of Stalin, the threat posed to the survival of the free world by the Communist conspiracy remains in our view basically undiminished. The Communist leaders continue to be completely hostile to the peoples and institutions of the free world. They retain the objective of waging a continuing compaign, in one guise or another, to undermine and ultimately destroy all rival power. They continue to command a military capability of truly formidable proportions and are unstinting in their efforts to augment it at the maximum rate possible. They retain in the world Communist apparatus a pliable instrument of subversion. They continue to enjoy the advantage inherent in a policy which seeks to exploit and magnify the world's ills rather than to overcome them.
- 2. Nevertheless it is apparant that erosive forces are operating within the Communist world. These offer a solid basis for hope that if the free world preserves its strength, unity and resolution, the time may come when the Communist threat will be reduced to acceptable proportions, if not dissolved.
- (a) Significant stresses and strains exist in the Soviet economy and these seem likely to increase. Difficulties are being encountered in agriculture, in the control and management of the increasingly taut economic machine, in meeting the mounting manpower requirements, in expanding the supply of materials required to attain production goals, and in effecting physical investment in accordance to plan. For several years, various indices have indicated a growing economic imbalance and a slowing down of the rate

of economic growth. Add the economic problems of the satellites, and the prospect of growing economic pressure on the Kremlin appears real. The benefits of the "decentralization" program currently being publicized are questionable. There is an inherent contradiction between real decentralization and a planned economic system like that of the USSR.

It seems unlikely that in practice decentralization will be carried far. Whatever is done in the way of decentralization may well add to the confusion and difficulties, at least for the next two to three years. It should be emphasized that in general what is anticipated is not a breakdown or severe crisis of the Soviet economy, but increasing problems for the Soviet leaders in the allocation of resources, the necessity of repeated modification of established goals, and a decline in the rate of economic expansion to a level more comparable to that of free countries.

(b) The ideological base on which the whole Communist system rests has been severely shaken. The Kremlin has tried desperately to reverse the trend toward ideological disintegration, but the damage done to the Communist mythology remains essentially unrepaired and probably unrepairable. The principle of the infallibility of leadership, the most important ingredient of the mythology, has been dealt a shattering blow. A complicating factor is that within party ranks the impression appears to exist of a division within the leadership between "stalinists" and "anti-stalinists." The result is uncertainty as to who really is in a position to speak ex cathedra. The party system now lacks what was most important for its monolithic character under Lenin and Stalin: the fixed principle that there is a final voice of authority

SECRET

--3∈

from which there can be no appeal. Many "revisionist" concepts have been put forward in party circles, and literary and artistic elements are insisting upon and enjoying a certain amount of freedom from the ideological strait—jacket. Cynicism, both within and outside party ranks, appears to be on the increase and some observers see a strong trend toward a "nihilist" point of view.

- (c) Popular attitudes within the USSR also appear to present a problem. We have no evidence that anything approaching an uprising is in the offing or is at all possible. There is, however, widespread evidence of growing dissatisfaction among intellectuals. It appears also that the masses are less responsive to Kremlin demands for continuing forced-draft efforts with minimal material returns. Moreover, the effectiveness of "terror" to drive the people forward has diminished. The most we can reasonably expect from this situation is a greater "dragging of feet," but coupled with other difficulties this could be quite important.
- (d) The leadership situation may also constitute a weakness. While direct evidence is lacking, there is a possibility of conflicts over policies. Moreover, while the leadership has shown a greater flexibility than did Stalin and perhaps a better grasp of objective realities, it has on several occasions given evidence of confusion and uncertainty. It has produced something of a record in false starts, sudden reversals in important and costly programs, incidents of bad judgment in domestic, party and foreign affairs.
- (e) The European satellites continue to present problems of serious proportions. Moscow has strengthened its physical control over all

except Poland, and another Hungary appears unlikely. What has been done, however, has not touched the basic problems that led to last year's crisis. The people remain bitterly hostile; economic conditions are if anything further deteriorating; intellectual fermentation continues widespread. In brief, all the old sores are festering.

It seems certain that Moscow will have to pay an increasingly greater price — in the psychological as well as the physical sense — for the privilege of ruling the satellites.

- (f) Poland offers a special problem. The Gomulka regime appears to enjoy a significant degree of independence in domestic affairs. It is following a program markedly different from the USSR and the other satellites. If it should be able to continue on its present course, it could hardly fail to prove a cancerous body in the Soviet-satellite structure. Yet for Moscow forcefully to reverse the situation in Poland would involve great costs and risks. Thus Moscow faces a real dilemma.
- (g) The attraction of "Titoism" as an alternative course still appears to be strong. Although Moscow is energetically attempting to withdraw the respectability granted Tito's "heresies" in 1955 and 1956, it appears to be finding it difficult to do so effectively. The "Yugoslav way" seems to affect the thinking and, in thinly disguised form, many writings throughout the Orbit.
- (h) While the evidence is less firm than in other areas, there are some indications of mounting economic difficulties in Communist China. Should these continue and grow, they might add significantly to Moscow's

own troubles.

3. We feel that the above problems and difficulties add up to a potentially serious situation for Moscow. However, we consider it necessary to stress that nothing in the present situation justifies the assumption that the Communist power structure is in jeopardy, or that a factor is operating that will compel a change in heart of the Communist leaders or force them in the near term to abandon any of their objectives. What is at work is a group of erosive rather than explosive forces.

These may, over a period of time, produce a significant evolutionary change. Meanwhile, the Soviet-Communist power is and will remain a hard reality. In this connection special attention should be paid to the following points:

- (a) The Kremlin, although doubtless hurting, shows no intention of unilaterally reducing its efforts in the armaments field. Its concentration on the technological race remains feverish and highly productive.
- (b) Moscow gives every indication that it is integrating nuclear weapons into all branches of its military forces and that it is getting into a position where large-scale armed operations would be likely to involve nuclear operations.
- (c) The present Soviet rulers have demonstrated a willingness to be as ruthless as Stalin when it comes to matters that directly or indirectly threaten their hold on power.
- (d) The Communist apparatus catside the Bloc remains an effective and dangerous instrument of Soviet policy. While de-Stalinization and Hungary

produced an important impact on fellow travellers and a limited number of the rank and file membership, hard core Communists in the free world obviously remain completely loyal to Moscow.

- 4. With respect to intentions, the pressures now operating within the Bloc have clearly not produced a modification of basic objectives. Beyond this, the following generalizations can be made about Communist intentions:
- (a) Basic to all Soviet actions and policies is the preservation of the security of the regime and of the territory of the USSR. Second only to this is the concern to preserve Soviet control over the satellites and to maintain Sino-Soviet solidarity. It seems almost certain, therefore, that the Kremlin in pursuing its long-term goals will avoid actions that would clearly jeopardize either the USSR or the Orbit.
- (b) Subject to the limitations imposed by this consideration, Moscow's basic aims are, in the sequence given:
 - (I) the elimination of United States influence and bases in Eurasia, the neutralization of United States allies, and the isolation of the United States;
 - (II) the expansion of Bloc influence and power throughout Eurasia:
 - (III) the elimination of the United States as a rival power center; and
 - (IV) the ultimate spread of Communist power throughout the world.
- (c) Chinese Communist aims appear to be identical to these of the USSR except more influenced by regional considerations. Thus Peiping gives first priority to the Taiwan problem, Japan, and the continued United States

SECRET

-7-

influence in Korea and Southeast Asia.

- (d) In view of security considerations, it appears that short of gaining a decisive technological advantage neither the USSR nor Communist China will deliberately resort to general war. The danger of general war would become great, however, if the free world relaxed its defense efforts. Under existing conditions, a general war might occur in consequence of Soviet miscalculation of United States intentions or in consequence of a series of actions and counter-actions not intended to produce general war. Moreover in a totalitarian system the possibility of a "madman decision" can never be completely ruled out.
- (e) There can be no assurances that the Communists will not again resort to local aggression. For the time being, concern that local aggression might precipitate general war may be an effective deterrent. As however their nuclear capability increased, the Communists may calculate that free world fear of a nuclear holocaust would rule out anything worse than counteraction on a local level and perhaps not that. The principal danger spots are the Taiwan Straits, Indochina, and Korea, but other areas cannot be ruled out.
- (f) Currently the Communists are concentrating on their longstanding aim to drive the United States out of Europe and Asia and break up
 its alliances. They are actively using the "carrot and stick" tactic, coupling
 "atomic blackmail" in their notes and propaganda with conciliatory overtures
 and gestures. In connection with the latter, they are especially seeking to
 regain pre-Hungary respectability.
- (g) Communist activity in the economic and technical assistance sphere is directly tied in with the campaign to isolate the United States and

٠,٠,٠

to fragment its alliances. The Communists can not be said to have transformed the struggle into one of economic competition. They still adhere to the "two world markets" concept. Their trade and assistance maneuvers are all directly related to specific political ends. The Communists clearly do not expect to attain "victory" in any area through economic means but to prepare the ground for the use of other means.

- (h) In the Middle East, the Communists are seeking on the one hand to keep the situation inflamed and on the other to get big-power acknowledgement of a special Soviet interest in the area. They have also sought to use Middle East developments to divert attention from their military crushing of Hungary.
- holding fast to their long-standing position on all with the possible exception of disarmament. The logic of the situation, including the terrible danger of a continued nuclear race and the increasing high cost of modern armaments, as well as the greatly increased expression of interest in disarmament, suggest that Moscow may be willing to make some concessions to get a partial agreement on disarmament. So far, however, Soviet proposals retain provisions that make them obviously unacceptable to the free world. It is entirely possible, therefore, that their objective in the disarmament field remains simply that of inhibiting the free world from developing its nuclear capability and from retaining the will to employ it if necessary. A significant recent development is the public reversal by Zhukov of the long-standing Soviet contention that in a new war the use of nuclear weapons might be eschewed as were chemical and bacteriological weapons in the last war. Zhukov says the

situation is basically different.

- 5. In view of the situation within the Communist Bloc and the nature of current Communist policies, the requirements of the United States and free world policy appear to be clear:
 - (a) Within our own ranks we must:
- (I) Avoid courses of action that would increase the danger of general war.
- massively in case of Communist attack and to resist effectively any local aggression; for this latter not only must the United States maintain mobile forces and the overseas bases necessary for their deployment, but effective local forces must be provided. (Failure of the free world to maintain a capability against local aggression would involve the gravest risks since it would leave the free world with no other defense against such aggression than the precipitation of a general nuclear war).
- (III) Existing free world alliances must be preserved and strengthened.
- (IV) Economic and technical assistance programs must be continued and strengthened to the end that maximum viability will be achieved throughout the free world. Communist efforts in this sphere must be watched and where necessary countered, but a shift of effort simply to reacting to Communist maneuvers should be avoided.
- (V) Emphasis on economic and technical assistance must not be at the expense of other defense measures, since the Communists clearly are not relying principally on this line of attack; they have the capability and the will to use other types of weapons.

SECRET

-10-

- (VI) Maximum cooperation should be sought among the free countries in the economic, ideological, and political spheres; energetic efforts should be made to resolve or neutralize differencessthat exist or may arise.
- (VII) Full support should continue to be given to the United Nations and efforts made to strengthen its capability to prevent or defeat aggression.
- (b) With respect to policies vis-a-vis the Communists, the principle of the free world should be to maintain policies and postures that will maximize the erosive effects of forces and pressures operating within the Bloc power structure. To this end:
 - (I) Further extensions of Communist power must be prevented.
- (II) No concessions should be granted the Communists in return for paper agreements or declarations.
- (III) The USSR should not be conceded the revived respectability that it is now seeking.
- (IV) Any arms agreement, partial or total, should be accompanied by concrete arrangements that will guarantee adherence.
- (V) Maximum efforts must be made to achieve world understanding of the true nature of Communism and its purposes and to marshal world opinion against the (Mathodax and mpractices so full be Communist leadersee the thinkin
- (VI) Maximum efforts should be made to influence the thinking and attitudes of the peoples held in bondage by the Communists.
- (VII) Cultural contacts between free and Communist-dominated peoples should be promoted but bnly in ways and to a degree such that advantages will redound to the free world and not to the Communists.

SECRET

SECRET

-11-

- (c) Special attention should be concentrated on the problems raised for the Communists in consequence of their forceful rule over the satellite peoples. Under present circumstances, actions and policies that might precipitate popular uprisings on Hungarian model should be avoided. Further uprisings clearly would be militarily suppressed by the USSR. While this would increase the costs of empire for Moscow, it would entail a terrible human sacrifice and would involve risks of general war particularly if Poland or East Germany were affected. The free countries should, however, continue to refuse to accept the permanence of enslavement of once-free states by the Communists and should refuse to enter into any arrangement with Moscow or Peiping that would in any way legitimize Communist rule over those states. To the extent possible without precipitating Soviet military action against them, the Poles should be encouraged and supported in their efforts toward greater independence. Similar policies should be adopted for other Communist regimes that resort to a more independent course, but only after a capability and intention along this line have been demonstrated.
- (d) Moscow and Peiping are bound firmly together by ideological, military and economic ties. The overriding emphasis placed by Peiping on Communist Bloc solidarity at the time of the Hungarian crisis strikingly demonstrated the Chinese Communist leaders' commitment to the goals of world Communism. It would be unrealistic to expect any action by the free world to induce a split between Peiping and Moscow. Only extreme disillusionment with the USSR and discouragement regarding the future of world Communism could lead to such a development. Every indication today suggests that the Chinese

Communist leaders regard their future as inseparably intertwined with that of the USSR and that they have supreme confidence in the final victory of Communism. Under such circumstances, the free world must persist in the policy of strengthening the free countries of the Far East militarily, to deter overt aggression, and politically and economically, to prevent Peiping from increasing its influence and that of local Communist parties by non# military means. It is essential to maintain the position of the Government of the Republic of China on Taiwan and in international affairs as a vital element in combatting Chinese Communist efforts to increase their power and influence. A "Two-China United Nations" solution to the problem of a divided China has been rejected with equal vehemence by both Peiping and Taipei and any attempt by outside powers to impose such a solution could only result in destroying the position of the Covernment of the Republic of China and contributing substantially to the growth of Communist influence in Asia. Asia, as in the rest of the world, United States policy is to strengthen free world countries, to p revent general war, and to exert such pressures on the Communist world as will contribute to evolutionary changes favorable to free world.

(e) Free world policy as a whole should rest upon the premise that at some point the combination of free world strength and erosive forces within the Communist world will lead to changes either in the Communist power structure or in Communist policies and attitudes that would reduce the threat to the free world. We should therefore explore every indication of Communist willingness to adjust, in part or in whole, to the requirements of a peaceful and stable world order. Where solid ground is found in the form of concrete deeds and actions, the free world should stand ready to enter into appropriate

SECRET

-13-

agreements and arrangements. Where, however, deeds and actions are not firmly put on the line, concessions and deceptive declarations must be avoided.

Any other course would invite disintegration of the whole free world program to attain peace without war.

な

日

本

Ø

地

位

と

そ

Ø

地

位

K

相

応

す

る

日

本

Ø

役

割

Ø

重

要

性

ż

自

覚

孛

日米協力に対する日本政府の決意

(昭和三二

玉, 一

0

0

5

は

力 榯 る 治 豁 ح あ M O K n 的 る 自 う 日 C 国 特 意 対 と 以 由 本 ح ま 妹 考 上 諾 付 C す Ø で 日 る 本 え 伸 協 今 昼 極 C 国 カ る 張 調 後 東 は 零 Ø な す 0 K を あ 向 Ø S V て 背 日 る 自 図 0 :< ₹ バ け 本 る 曲 ラ は ح す ま 李 と 因 ح る を Ø を で ン と 日 維 た 安 を 主 自 ス わ 主 本 持 全 跙 を ち 自 由 単 止 義 そ 厾 す は 由 Ø ` る 諾 す Ø 日 主 を C 地 擁 外 Ŀ 軍 る 本 主 位 玉 自 由 ľ 護 交 義 は KC 奪 全 は 上 赭 ゔ す 政 体 体 重 重 る 策 要 Ø 国 制 要 Ø 自 安 全 た Ø 由 み Ė で な 体 層 基 堅 全 λ 豁 此 ጵ あ Ø 団 調 国 持 重 ら K る 安 結 は 0 と す を Ø 嗲 重 ベ 全 す を 占 自 な 共 る R 強 員 à 分 l λ わ 敷 産 بح で 固 Ġ て は ŋ ち 広 存 KC 主 Ø L あ 共 S る す て 産 移 義 で S る ح べ 勢 あ ح ۲ 多 主 世 ح Ø 巷 à 力 と 界 義 る n 信 ょ

輸

勢

政

ず

う

7

¥2.

n を ば 演 Ľ. ۲ 7 そ (A る 極 米 東 国 (C) と ₺ Ø け 協 る 力 自 関 由 係 庫 営 を 不 Ø 可 利 益・ 欠 ٠. ح 擁. 考 護 充 C 同 ľ そ **〈**... Ø 重 強 化 要 発 ኟ 展 る を·· 役 希

望しているのである。

C ろ 強 ٠ع 化 M U 発 つ. ろ Ŋ, て Ø 展 る 原 C あ・ C. る 相 因 程 応 日 Z. 度 米 あ し 避 関 る Va. で 状 係· け 態 Ź Ø: あ ろ 現 5 C Ġ 状: あ n な Ŋί る・ は Ø • • ٤ 办 败 つ M 遺 戦 憾 た 5 結 と ح な 果 ح 長 Ϋ́ で 期 は ら Ø: て ٠ ح 3 る 占 à Ø 領 : خ ょ な を ĝ ĺγ. S O, **う**: な: 経 ٠ ځ 験 協 \succeq ٠ ځ L n カ **\$**\$... 関 た C日 J. . は・ 係 à 本 V Ø

る 。

۲ 出 ろ ナ 発 Ø 両… 点 経 1 玉 緯 シ・ C 政 際 府 ッ \mathscr{C} 会 拘 プ は • L 泥 を・ て L 過 : 確 立 で 去 V る すご KC M. る る ځ. क्र た 時 M. Va--Ж. Ġ 期 τ VC戾 7 執· は・ 持 は・ り 0 た KC た 立. 政: M. V **7**). 9 O, 策 . て. K 日 P. す. • 米 今 る Ø. ح 後 ۲, 窗... 礼. 両 力 ٤٠ C が **I** 関 関: 間 最 係 連: 善. C ° D. Ø 真 新 た 方 **b**: Ø S 法 パン た ろ で 1 <u>ት</u> (A

で ぁ る χ<u>ζ</u>ν を 真 剣 C 考 慮 す ベ 套 て あ る ٤ 考 Ź る 0

極 確 的 自 分 た C 玉 は 泱 民 意 冒 Ø 頭 を 前 有 KC K 明 述 す る ベ 6 か た ػ Ø C で L ટ あ て き H 保 本 守 Ø ま た 勶 進 憲 力 扩 法 C 改 t き 基 正 る • 政 本 そ 罽 的 方 Ø Ø 他 安 向 各 定 を

今

後

橨

を

図

る

内

体

制

Ø

整

備

C

努

力

す

る

覚

悟

を

有

す

Ż

b

Ø

で

あ

る

占

る

Ġ

り

. 般

0

国

で を ľ あ 中 り ح る <u>1/2</u> は Ø 0 化 際 特 Ħ 彼 す 本 6 る C耄 欢 ح 強 中 そ と 謂 立 Ø L 化 た ょ す す う な ľΑ る な わ ۲ 3 ح ح 政 ح 策 は Ø ŧ 日 米 ع 方 ゾ る 連 ŊΣ Ø 0 は (C 攤 る 至 間 中 ያን 7 を 共 図 Ø C た 最 6 賢 Ø 大 明 ん は と で Ø 狙 あ 戦 り て 争 V を は V 賭 る ŧ

ح.

ح

す

る

た

有

日

本

中 茐 Ø 立 団 で 化 結 あ す る K る と 致 命 ح 考 的 と Ż. な Z)Š て 打 $\langle a \rangle$ で る き を れ か ば 5 兔 K る そ ぼ ح Ø 办 ح ۲ な を ح 5 意 は な 妹 極 V 東 0 地 す 域 ソ ケ . 1/0 連 わ お 3 中 け 共 る 易 自 は L そ 日 由 車 本 Ø 目 を 営

的 隙: ゔ ع n: ば 的 Ξ を を 6 獲 ح な・ 豲 で Ø' ば Ø Ø. な、 な 従 雪 I 得· ح 5 У· ′ つ. た X ぁ な l۵. Ο.. ح す る・ る n V 連 て. **20**. Э. な • ح 足: \mathcal{C} る ア ば Ţ な・ ۲ VA: 9. O. ځ. ĝ ŋ 中 ح あ 政. ح 沙 Ø. 策 ٤. ح な 共 Ø 6. 7 Z1... \subset る そ・ بح を Ø. 際. ゆ と 地 な 兌 Ŀ म्रोहरू. Ø る 日. 成. 域 7 ÆØ. た 意 る ኟ な V) 図 米· 術 ح て ζ. 6 う [·] **X**5 ' 功 る 全 日 体 考 L ケ Ė KC を 面 策 也 χ'n え. 本 τ る は 国 を Ø. Ø : سا 6 **V**A.. ح 共 る。 国 単 両.. 両 政 **X**5. で.. で **∄**¥. 0 玉 產 民. (C:: は 国 府 る る あ C۲. 協 XX. λì で ح 化一 Ø な 両 L る 力 < 彼 て. ٤. 0 10. n 支 玉 真 ぁ ۲. χ). ے. 挤 Ø" 関 6 破 剣 ろ. 彼 そ を 軍. 係 砕 1C う 可 彼 Ø 6 **7**. 失 考. ح ソ 事 を. 5 軍 す 能· て は 連 ゔ 慮 体 ح 專 る ٤. で H 計. Ż 結 制 5 す あ 米 Ø 力 ል を り・ 中 果 祭 < ح Ø. . K べ. 見 る 関 知 共 逐 対 係 み. 確 さ V) Š と n <u>ঈ</u>⋯ 抗 ざ Ø 両 IC. 立 W. ک L 判 Ø 術 問 ځ る 国 頼 L. を す 7 断 現 中 る・ 打 題. 状 Ø. な る は は L 有 ح 込 け 7 な 利 KC 同 備 **7**)4.1 盟 **ま**: 陥 n: Ź. 2 ĺ٩. な ح ら 6 な る 関 ば、 れ をご Ó 地 **う** : けご Ø な Дì. る。 (A) ľ 目. て 係 位 8. ۲. な・ す: れ

提 Ø す 案 ځ る L ديا **う**: ح. モ ~; ٤ (A ŧ \mathcal{C} る 7 Ţ Ø **b** っ β. • ろ 7 ø. ٦, خ . ح بح 日 Ø 自 分 本 t **7**5. 国 **う**. 安 奓 月 ዅ 保 る O. 覾 粂 支 汍 と 約 持 ďγ を Ø. 5 獲 政 C. Ē 得 **/**袞 る Ŀ 办 ટ • b ケ 真 6 餫 土 Ø: な 日 問 M 0 題 米 O. 協 目 Ø. 方 分 解 は , : 関 決 څ を

ば 基 条 選 を 強. う 0 民 挙 両 L 化 約 総 儊 ć 前 院 選 逝 D. Ť. を は 指 0 確 藥 ٤. 改 拳 L. 基 M. Œ L 8. $\overline{\underline{\mathbf{M}}}$ た 礎 年 は る し 憲 て を 後 Ŋ L Ø ح Ė 自 法 ず Ţ: Ť. (C b 固 衍 南 Ŋ. 改 れ Λž. あ 由 B) 方 る 俥 Ŧ. わ 遠 る る: ح 自 K 諸 営 n が 办 • 必 ゟ ح 島 B Ø 分 要 Ď, · Ø す χ'n は そ 強 Ø. な 問 : خ C 是 Þ 固 今 Ø \equiv 題 非 後 れ 6 た *ት* 分 ż 政 ځ 5 ね 30 'حب 解 Ø. ば 員 局 Ø. Ø \mathcal{C} 决 選 坚 け た Ø: な 獭 Ø L 拳 5 ま 安 重 ら 確 多 . 定 た Cず Ĺ 信 な 数 Ŀ <u>*</u> Ŋ. 日 は ∞ す VA. で: Ö 図 を بح 米 7. 獲 臨 考 協 る 自 参 行 得 **办** * 分 文 **\(\tau_{i} \)** ٤ カ 繿 Ø. 7 بغ 院 Ż 関 ځ Ł た で غ Š VA: · 1 Ò 係 Þ 촒 あ 0 て る. ĸ る 員 衆 Ø を で そ 新 強 付 繿 Ø ġ. あ 1,3 半 < 院 **Ы**. 日 ろ す. た 决 本 安 数 議 保 う. れ 員 ፳ ıĵ. 係 Ø: 国

٤ 思 う **:**O そ Ì L ζ ح そ 初 め τ ٠, 自 分 Ø 年 来 Ø 主 張 C あ る 憲 法 政

具 体 的 日 程 CŦ 6 Ł る ۲ ج Z. 7 ė る 正

不

‡~

端

党 可 7 会 KC る lacksquareŢ 覚 Ø 走 欠 Ź. ま V2 T 7. る R 中 る Ġ た Ö Ø. ケ \$ \mathcal{C} 傾 あ 外 環 自 Ó は 向 る 厾 境 交 分 7 穩 Œ D. 主 • 主 政 を ځ 左 健 あ 派 そ 策 ゥ L な る 義 < 良 ح Ė て Ø Ø 政 繈 麥 勢 ح 治 D は , .^ 数 7 力 ż 方 あ Ø 行 る Ó 彼 办 Ø 健 国 à ß 強 者 私 全 社 た 会 因 B Ø $\langle a \rangle$ は な 党 力 た 少 H 発 Ø V) 憖 ۳ 支 ح 達 Ж な 郯 0. 持 考 社 ろ 特 Ø ላን を 尧 会 憂 ح Ġ K た 兔 外 B 犠 て. 党 n ₹` 内 交 牲 ĬC ĺД. b (A 7 る る 政 は C \mathcal{C} Ò (A -- 0 * す 穩 る 策 Ø 大 る そ 健 ፖ V) 6 Ø ځ 分 れ 7 政 あ Ø 面 ح **子**. 党 10 指 る C C は は 蕦 な 亦 ぁ 零 Ø < 抑 る 存 反 権 **√**3 L 0 対 を え 現 て 在 Ť 党 KC 在 社 5 極 郯

<

Ó

Δ×

最

善

Ø

鿗

Ċ

澎

ŋ

.

そ

う.

を

n

ば

جُهٰا

à

Þ

ľΣ

社

会

党

内

7

B

穩

健

な

分

ま

3

خ

ĵ

办

5

反

対

7

ð

な

۲À

 \mathbf{I}

う

な

状

況

Ł

保

守

党

Ø

手

で

ら

<.

つ

7

行

Iţ.

٤

ぎ

社

九

会

Ø. 力 Žζ 大 て < る **∥**C 違 M. な 思· . う 。 n. は 労 組 合 **IC** 5

ても同様のことがいえると考える。

۲ Ø ľ ゥ IC 私 は 政 治 面 外 交 面 1C お け る 新 日 本

Ø

建

設

Ø

は 対· 米 関 係 Ø 調 整 (C · あ ŋ ٤ 考 Ż τ Ŋ る 次 第 て あ る O

10000

May 11, 1957

The United States Ambassador called on the Prime Minister at 8:30 this morning and stayed for about one hour and half.

Further talks took place on matters relating to the Prime Minister's prospective visit to the United States. Mr. Asakai, the newly appointed Ambassador to the United States took part in the talks. Jopen-U.S. Excloratory Salks Japaness Paper No. 11

Confidential

Needless to say, as I stated previously, Japan will adhere strictly to the principles of freedom and democracy. As a momber of the Free World, the fundamental basis of Japan's foreign policy is to promote cooperation with all the free countries of the world.

It is my conviction that, in order to uphold the principles of freedom and democracy, the free nations of the world must strengthen further their unity and check the spread of communist influence. Thile the security of Japan depends upon the security of all the free nations, Japan itself occupies, on the other hand, an important position in the maintenance of security of the Free World, in other words, in the maintenance of the balance of power against the communist world, not necessarily only in the military sense but in the broad world political sense. The position of Japan in the Far East is of special importance. Because I am fully aware of the position Japan occupies and the great responsibilities that go with such a position, it is my carnest desire to strengthen Japan's cooperative relations with the United States which is likewise playing an important role in protecting the interests of the free nations in the Far East. I am convinced that such a close cooperation is indispensable.

However

However, the existing state of affairs between the United States and Japan, unfortunately, can not be said to be wholly conducive to the strengthening of the relations between the two countries. There are without doubt many reasons for such a situation. But, it must be said, that this situation was to some extent unavoidable for Japan in view of her defect and the long period of occupation that followed. It is not the time for the two Governments to brood over the various policies taken by them in the past and the difficult circumstances arising in connection with such policies. It is my firm conviction that the time has now arrived to give new importus to the cooperative relations between our two countries by giving serious consideration to finding the best means for setting up a truly genuine partnership between Japan and the United States.

I am determined to establish political stability with the support of the conservatives of the country by making clear to the people the basic policy and course that Japan should follow, and shall exert my utmost efforts for the consolidation of various domestic conditions including the amendment of the Constitution.

It should be particularly emphasized at this time that as has just been mentioned in your statement, the paramount aim of the Soviet Union and Communist China is to neutralize Japan, in other words, to drive a wedge into the relationship between our two countries

countries. The Soviet Union and Communist China resort to such a policy because neutralization of Japan is far more prudent and effective than to risk a war. If they should succeed in neutralizing Japan, it would amount to dealing a fatal blow on the unity of the free nations in the Far East, and their gaining an immeasurabley advantageous position in their design to communize the entire Far East. They seem to have decided that it is possible for them to succeed in their policy of neutralization in view of the present condition of the relations between Japan and the United States, and we must not overlook the fact that they will resort to whatever means possible to attain their objective.

Consequently, most careful consideration should be given by our two Governments to the problem of how to crush such designs of the two Communist countries. For this purpose it is not sufficient merely to prepare ourselves against their military power. He must, at this time, bring about a genuine cooperative relationship between our two countries, strong enough to withstand any attempt on the part of the Communists to drive a wedge into it. If attempts were made only for the building up of our military strength without such a close cooperation, it might be difficult to retain the full support of the Japanese people, thus weakening the unity between our two countries. If such a situation were to come about, it, indeed, would amount to our two countries letting

themselves become the victims of the strategy of the communist powers. It was only from this point of view that I suggested a revision of the Security Treaty and settlement of the territorial problems. It is my firm conviction that, in this way, it would be possible to win the solid support of the Japanese people, thus creating the basis upon which to build a genuinely sound cooperative relationship between Japan and the United States.

As I said before, I am determined to stabilize the political situation in Japan and to lead the Japanese people so that they will be reliable members of the Free World. In order to attain these objectives, it is essential that a new basis should be established for Japan-American cooperation. We shall hold a general election of the House of Representatives sooner or later. An election for half of the members of the House of Councillors will take place two years later. Pefore these elections, I hope to be able to carry out a revision of the Security Treaty and to resolve the problem of the southern islands. When these are realized, I believe the Conservative Party can win the two-thirds majority in both Houses necessary to emend the Constitution. Thus, for the first time, it will become possible to place my long insisted on plan for the amendment of the Constitution on the agenda of the Diet.

The existence of two parties is essential for the sound development of democracy. But I am always concerned that the Socialists are apt to run to extremes, especially in the field of foreign policy. Although there are many moderate Socialists of good sound judgment, the leftist group in the Socialist Party is predominant, obscuring the moderate members. I hope a situation can be brought about whereby the moderate elements can take the leadership in the Socialist Party. And the best means to bring this about is for the Conservative Party to create a situation in the field of foreign policy, which the Opposition can not oppose without losing the people's support. In this way the influence of the moderate members can be increased. The same is true in the case of the treds unions.

Thus, I am convinced that in building up a new Japan in both the internal and external fields it is necessary, first of all, to adjust the relations between Japan and the United States.

I believe that our two governments are generally in accord in their estimates of the international situation and the policies of the communist powers vis-a-vis the free nations. It is with this purpose, which I have mentioned previously, in mind that I suggested a revision of the Security Treaty and settlement of the territorial problems. The deeper I think over the position of my country in

the present international situation, the more strongly I feel the need for our two countries to gain full understanding of each other. I believe it to be most essential that any misunderstanding between the two nations should be removed and that no chance should be left for the communists and other leftist elements to exploit to their advantage.